

八戸市総合計画策定委員会 第5回専門部会「魅力づくり戦略部会」 議事概要

日 時：平成27年7月24日（金） 14：00～15：00

場 所：八戸グランドホテル2階 グランドホール

出席委員：5名

大谷委員（部会長）、大黒委員（副部会長）、河村委員、米内安芸委員、米内正明委員
（欠席1名：町田委員）

事務局：

政策推進課（大久保主査、佐々木主事）、まちづくり文化推進室（三浦副参事、下村副参事、下斗米副参事）、スポーツ振興課（松橋主幹）、屋内スケート場建設推進室（石上副室長）、是川縄文館（船場主査兼学芸員）、観光課（中村主幹）、社会教育課（小保内副参事）、道路建設課（佐々木副参事）、都市政策課（石橋副参事）

（株）ケー・シー・エス 東北支社 石田

次 第：

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 審議案件
審議1. 第6次八戸市総合計画（案）について
- 4 その他
- 5 閉会

審議案件に関する主な意見：

戦略4 魅力づくり戦略

【戦略全体について】

- ・原案からの修正点について、委員全員了解。

1. アート・スポーツプロジェクト

【プロジェクト全体や名称について】

- ・特に意見なし。

【現状と課題について】

- ・特に意見なし。

【プロジェクト指標について】

- ・特に意見なし。

【展開する施策について】

■施策1：アートのまちづくりの推進

- ・「八戸市美術館整備事業」の新規追加に伴い文章表現が変更されたが、事業名称の“美術館”という言葉が適切なのか疑問である。美術館というと、ある程度の社会的評価を受けた作品のみが展示される場所というイメージを持つ市民がいるが、八戸市美術館は開館以来、市民のアート活動の場として活用されてきており、専門家からも評価されている。「アートのまちづくり」で目指すべき

は、市民が表現し合える場をつくることである。今後、事業についての検討を行うとのことだが、具体化する際には、「アートのまちづくり」を基にしたコンセプトの検討と斬新な名称を期待したい（例えば「アートシアター」など）。

■施策2：地域スポーツの活性化

- ・特に意見なし。

■施策3：氷都八戸の再生

- ・特に意見なし。

2. 八戸ツーリズムプロジェクト

【プロジェクト全体や名称について】

- ・特に意見なし。

【現状と課題について】

- ・特に意見なし。

【プロジェクト指標について】

- ・特に意見なし。

【展開する施策について】

■施策1：観光ブランドの強化

- ・特に意見なし。

■施策2：おもてなしの充実

- ・前回も話があったが、インバウンドをどうするかが重要な課題である。本計画が今後何年かの指針になっていくのだとすると、プロジェクト内にインバウンドという言葉が入っていた方がよいのではないか。
- ・現状と課題の最後の3行及び展開する施策の説明の中で、インバウンドの意味合いが含まれている。また、一般市民にとっては、インバウンドという言葉の意味が分かりにくいのではないか。
- ・外国人旅行者を含めた訪問客へのおもてなしが重要となる中、宿泊施設等の観光事業者が高い意識を持って取り組むことが重要である。
- ・展開する施策の説明の中の「市民意識の醸成」は事業者も含めてということなので、現在の表記のままでもよい。

3. 中心市街地活性化プロジェクト

【プロジェクト全体や名称について】

- ・特に意見なし。

【現状と課題について】

- ・特に意見なし。

【プロジェクト指標について】

- ・特に意見なし。

【展開する施策について】

■施策1：都市機能の集積

- ・特に意見なし。

■施策2：回遊性の向上

- ・特に意見なし。

その他意見

- ・特に意見なし。

【第4回結果概要】

- ・原案からの修正点について、了解を得た。
- ・「アート・スポーツプロジェクト」では、主要事業の概要に「八戸市美術館整備事業」が新規追加され文章表現が変更されたが、事業名称の“美術館”という言葉が適切なのか疑問を感じる。今後、事業を具体化する際には、「アートのまちづくり」を基にしたコンセプトの検討と斬新な名称を期待したい。
- ・「おもてなしの充実」では、インバウンドの重要性は高い一方で、業界の動きは足並みが揃っていない状況。住民だけでなく事業者も含めて「市民意識の醸成」を図っていくことが必要。